

生物学における無知を分析する

石田 知子 (Tomoko Ishida)

富山県立大学

近年、人文社会科学の各領域において、無知 (ignorance) についての研究が盛んに行われている。歴史学においては、無知学 (agnotology) の旗の下、無知が人工的・戦略的に作り出され、維持されるさまが描かれている (Proctor and Schiebinger 2008)。哲学においては、無知学の影響の下で、フェミニスト研究やポストコロニアル研究など、マイノリティの解放に関連する学問から、無知の認識論が誕生した (Tuana 2004, Tuana and Sullivan 2006)。無知の認識論では、無知と認識的責任の関係などの規範的な問いの探求に加え、無知と知識の複雑な関係を理解すること、あるいは多様な無知を分類することなどが試みられている。

これまでの無知研究において、分析対象として挙げられてきた事例の多くは、歴史的・社会的な影響を色濃く受けていた。例えば、タバコ産業によって形成・維持された喫煙の健康被害に関する無知 (Proctor 1995)、あるいは、国家機密のように意図的に形成される、社会的に認められた無知など。これらは、無知が戦略的に形成・維持されている事例である。あるいは、マジョリティの持つ認識的資源がマイノリティの経験を言語化するのに不十分であるために生じる無知など、マイノリティの抑圧に関与するものもある。以上のような、無知研究における典型的な「無知」のありかたは、フェミニスト科学哲学を除く、「主流派」の科学哲学において、無知に対する関心が必ずしも高くなかったことの主要な原因の一つであるように見える。すなわち、学術的な興味・関心の対象となるのは、歴史的・社会的な要因という、科学的実践の「外部」からの影響を受けて形成・維持された無知であり、それらを除いては、単なる「知識の欠如」というトリビアルな無知があるのみだと考えられていたのではないだろうか。

本発表では、科学的実践において、戦略的無知やマイノリティの抑圧に関する無知以外にも、興味深い無知の事例がありうることを、主に生物学の事例を通じて示したい。そのための足掛かりとなるのが、無知の認識論の代表的論者の一人である Rick Peels による無知の分類 (Peels 2023) である。Peels は、無知を「命題的無知 propositional ignorance」「対象的無知 objectual ignorance」「実践的無知 practical ignorance」に分類し、さらに、認識主体の命題 p に対する態度に応じて、命題的無知を「不信の無知 disbelieve ignorance」「保留された無知 suspending ignorance」「未決定の無知 undecided ignorance」「考慮されていない無知 unconsidered ignorance」「深い無知 deep ignorance」「完全な無知 complete ignorance」の六つに分類した。さらに、個人レベルでの無知に加え、集団レベルでの無知が存在することを説得的に論じている。本発表では、まずこれらの分類の妥当性について論じる。次に、生物学におけるいくつかの事例を、分析・分類する。

参考文献

- Peels, R. (2023) *Ignorance: A Philosophical Study*. Oxford University Press.
- Proctor, R. N. (1995) *Cancer Wars: How Politics Shapes What We Know and Don't Know about Cancer*, Basic Books. (邦訳 プロクター『がんをつくる社会』, 共同通信社)
- Proctor, N. R and Schiebinger, L. (2008) "Agnotology: A Missing Term to Describe the Cultural Production of Ignorance (and Its Study)" in Proctor, R. N. and Schiebinger, L. (eds.) *Agnotology: The Making and Unmaking of Ignorance*. Stanford University Press, pp. 1-36.
- Tuana, N. (2004) "Coming to Understand: Orgasm and the Epistemology of Ignorance" *Hypatia* 19(1) pp.194-232.
- Tuana, N. and Sulliva, S. (2006) "Introduction: Feminist Epistemologies of Ignorance" *Hypatia* 21(3) pp. i-iii.